

質 問 書

札幌市中央区北4条西4丁目1番地 加森3ビル
加森観光株式会社
代表取締役 加 森 公 人 殿

2004年7月23日

(社) 北海道自然保護協会
会長 佐藤



貴社におかれましては、益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。

さて、昨今の新聞報道により、貴社がサホロリゾート内にヒグマの「放し飼い」による観光施設を建設する旨を知りました。これらの報道によりますと、その広さは約9ヘクタールの、周囲を囲んだ「開放型」の施設に、多数のヒグマが飼育されるとのことです。

当協会は、上記の計画が自然保護の上から問題視されると考え、大きな懸念を覚えますので、それらの理由を述べ、貴社に対して質問したいと思います。巷間では、貴社が「ヒグマ施設」の建設に近々着手するとの噂がありますので、この質問書が到達後2週間以内に、誠意ある回答をいただけることを望んでおります。

1 理由

(1) 動植物の特徴

「ヒグマ施設」が建設されると報道されている地域は、かつて、サホロリゾート開発事業にあたって(株)西洋環境開発等が平成3年4月付で作成した「狩勝高原サホロリゾート開発事業に係る環境影響評価書」によると、動植物に関しては、少なくとも下記の特徴を有する地域であることが明らかである。

① 「ヒグマは、佐幌岳登山道の標高935m地点で足跡と餌を探すために土を掘った跡が確認され、また昭和57年に佐幌岳林道口で見たという報告がある。これらのことから、ヒグマはおそらく調査地内には定住していないと考えられるが、移動中に調査地内を通過することは充分考えられる。」(評価書96頁)

② また、日豪渡り鳥条約の指定種であり、通称レッドデータブック(当時)に掲載されているオオジシギは、調査地において夏期間に生息し(同98頁)、そこに繁殖している可能性を否定できない。

③ さらに、沢筋にはエゾサンショウウオの生息が確認されている(同103頁)

④ 植物に関しては、特に平坦地の沢筋において、同じくレッドデータブックに掲載されているナガバツメクサ、エゾノレイジンソウ、エゾノコギリソウな

ど希少植物の生育が確認されている（同86頁）。

（2）ヒグマ施設の影響

報道に見る限り、貴社がサホロリゾート内のどの地域に「ヒグマ施設」の建設を予定しているのか定かではない。しかし、9ヘクタールもの広大な地域を閉鎖的に囲い、ヒグマのみを飼育することは、以下のように、多くの懸念を生起させる。

① 仮に、沢筋を囲んだ場合、ヒグマが前記エゾサンショウウオを採食する蓋然性が高く、ナガバツメクサ、エゾノレイジンソウ、エゾノコギリソウなども採食されるか踏みつけられるかして、これらの生物が当該地域において絶滅する危険性が高い。

② また、オオジシギは、囲われたクマ施設の中で生息し、繁殖することが不可能になると予測される。

③ そして、最も重大な懸念は、本来、野生ヒグマの生息地である地域を「飼育されるヒグマ」に与えることによって、野生のヒグマからその生息地を奪い、その生態に重大な影響を及ぼす点である。例えば、野生のヒグマの生息地を一部であっても確実に消滅させること、また野生のヒグマが「ヒグマ施設」に撒かれる餌に呼び寄せられ、あるいは雌雄の性差によって呼び寄せられて、当該ヒグマが施設付近において「有害獣」として射殺される恐れが高くなること等、重大な影響が予測される。

2 貴社に対する質問

（1）貴社は、報道されているような「ヒグマ施設」をサホロリゾート内に建設する計画を真実、有しているのか。

（2）もし、計画されているのであるならば、その計画の内容を明らかにされたい。

（3）また、貴社の計画について、貴社は環境影響調査を行ったか否か。

（4）仮に、貴社が環境影響調査を行ったとすれば、その内容をすべて開示されたい。

以上